

「基礎的・基本的な学力」が身につく課題解決活動

－「基礎的・基本的な学力」の追求－

平成 14 年度から、完全学校週五日制と共に、新学習指導要領に基づく教育課程が全面実施されます。この新しい指針では、総合的学習の時間がクローズアップされ、生きる力の育成に力点が置かれています。

21 世紀は物質的に豊かになり便利になる一方で、変化が速く、対応や解決を迫られる問題も多く存在すると思われまふ。身近な所から地球規模に至るまでの環境問題、コンピューターや通信機器の発達・普及による急速な情報化、交通手段や通信網の広がりによる国際化への対応、そして、少子化と社会の老齡化の問題など、いずれも緊急な対応が求められているものばかりです。

例えば情報化に関して言えば、大量の情報がテレビや新聞からはもちろん、平成 7 年頃から盛んになり始めたインターネットや普及が著しいパソコンによって、また、ますます高性能化する携帯電話などの通信機器やあふれる印刷物等によって生活の中に入ってきています。大人も子供も渦巻く情報の海を漂い、さまよっているように思われます。

情報に翻弄されることなく情報を使いこなすには、情報機器や情報網についての正しい理解が必要です。そして、それらを使いこなす知識・技能、探求心、そして使用に当たっての高い倫理観がなければなりません。このことは、他の問題についても同様です。

21 世紀に活躍する今の子供たちには、これらに適切に対応して、自他の人生を豊かに充実させるための生きる力が身につく教育が必要です。特に小学校では、子供たちの現在を充実させると共に、生涯にわたって必要である生きる力の基礎・基本を育まなければなりません。

私たち附属久留米小学校では、一人ひとりの子供が、ゆとりの中で生きる力を育み、伸びの実感を味わえることを目指して、日夜、研究・実践を続けてきております。

では、生きる力を育むには何が大切なのでしょうか。

私たちは子供たちに、対象の本質を追求する見方・考え方、学び方、そして探求心を身につけさせることが大切であると考えます。そこで、各教科・領域におけるこのような見方・考え方、学び方、探求心を「基礎的・基本的な学力」として追求してきました。そして、この「基礎的・基本的な学力」を育むための課題解決活動の在り方を明らかにしてきました。

この度、この研究の成果をまとめ、ここに出版することになりました。私たちは、この小著が実際の授業にも直結するようにと願っています。

そしてこれからの教育にいくらかでもお役に立てれば幸いです。同時に、多くの読者諸賢のご意見ご批判を私たちのこれからの更なる研究・実践に生かしていきたいと思っております。

最後に、本著は本校の研究同人のみならず、多くの方々の熱心なご指導ご支援によって出来上がりました。福岡教育大学の寺尾慎一先生には全体講師として多くのご教示を頂きました。前校長の片山智士先生はじめ福岡教育大学の多くの先生方並びに本校の諸先輩方にも貴重なご指導を頂きました。心から厚く御礼申し上げます。また、出版に当たり、多くの便宜をはかって下さいました明治図書出版の樋口雅子氏に深く感謝いたします。

平成 12 年 3 月
福岡教育大学附属久留米小学校
校長 福武 孝義